

8・5全国郵政労働者交流集会

2016年8月5日

はじめに

2016年5月27日、オバマ米大統領が「核の発射ボタン」をたずさえて広島島の平和公園を訪れました。許しがたいことに、原爆慰霊碑の前で安倍首相と2人で誓い合ったことは、日米安保の強化です。

日米安保の強化で起きたことは、5月沖縄で起きた米軍属によるレイプ殺害事件です。それを居直り、舌の根も乾かぬうちに「(原爆が)天から降ってきた」と演説し、核なき世界のペテンで、やっていることは核戦争の準備です。安倍首相も、それに追いつけ追い越せで改憲に進んでいます。

8・6ヒロシマ大行動に参加するわたしたち郵政労働者も、明日のオバマ演説を引用した「平和宣言」を許さず、今日、明日の行動を全国から結集した仲間と共に闘おう！

1、参院選を闘って

わたしたちは、大恐慌が戦争へと転化する情勢をとらえ、戦争を革命に転化するものとして、断固として登場し全国の闘う仲間と共に参院選を闘いぬきました。

今回の参院選は何よりも、「資本主義はもう終わりだ！労働者の団結した力で今こそ革命をやろう」と真正面から訴え、1万6187票を獲得しました。その1票1票は、鈴木たつお候補とともに改憲・戦争を阻止し、労働法制改悪阻止・非正規職撤廃を闘う渾身の決起であり、「新しい労働者の政党をつくろう」という呼びかけに対する圧倒的な賛同でもあります。

毎日の街頭宣伝の中で、鈴木たつお候補を先頭に、全学連・学生の街宣隊を中心にして討論の場が作りだされました。

街頭で出会った労働者の怒りの声こそ、安倍の戦争政治に対する怒りであり、非正規化と貧困に対する怒りであり、新自由主義の矛盾が最も集中する職場生産点からの怒りであります。さらに多くの労働者をとらえたのは「労働者には社会を変革し、担う力がある」というマルクス主義の思想であります。街頭宣伝で通用したことは、自分の職場でも通用するはずだ！職場生産点で勝負して、職場(労働組合の中)にマルクス主義を復権しよう。

安倍・自民党は、参院での単独過半数、改憲2/3勢力を確保したと、わめいている。がしかし、一方で日帝支配の危機に震えあがっています。沖縄、福島で大敗北。

鹿児島県知事選でも大敗北。それは改憲を争点からごまかし、戦争と基地、原発事故を抹殺しようとした安倍・自民党に対する激しい弾劾であります。

さらに、安倍は突き破れない「岩盤」にもがき苦しんでいます。それは、国鉄決戦 動労総連合建設という「岩盤」であります。参院選過程において、国家権力中枢・反動の密集する首都・東京で、動労東京結成を勝ち取ったことはとてつもない勝利です。そして7・12動労総連合総行動は、被曝と帰還を強制する日帝・安倍政権を直撃する一大闘争として爆発しました。ここに階級的力関係があることをつかんで、国鉄闘争と一体で郵政産別でも闘おう！

さらに、民主労総ソウル地域本部が、11月の闘いを世界的共同行動として呼びかけています。動労千葉と民主労総ソウル地域本部が共同して、全世界に、東京・ソウルへの大行動を呼びかけるという壮大な方針であります。この呼びかけに応え巨大なイメージと構想をもって11月に向かって職場・地域で勝負しよう！

2、情勢

世界大恐慌がますます激化・深化し、戦後の世界体制が音を立てて崩壊していく未曾有の大激動情勢に入りました。

6月23日、イギリスの国民投票でEU(欧州連合)からの「離脱」が多数を占め、全世界に激震を与えました。この本質は、EU体制とそのもとで進められてきた、あるいはサッチャー以来の新自由主義に対するイギリス労働者階級の怒りの爆発である。資本主義の発祥の地から、資本主義の終わりが始まったのです。

さらに7月1日、バングラデシュの首都ダッカで日本人7人を含む23人が殺されるテロが起きました。この事件の最大の責任は安倍にあります。各国と競い合っ低賃金の労働力を求め、日本のブルジョアジーはバングラデシュの労働者を強搾取し、さらに中国に対する軍事拠点の候補地とも言われている。こうした安倍の侵略と戦争政策がダッカ事件を引き起こした元凶です。

トルコでは15日からイスタンブールを中心とする「軍隊内の大規模反乱」、7・7アメリカ・テキサス州での銃撃戦。

8日には、米韓による高高度迎撃ミサイル(THAAD)の在韓米軍への配備が発表され、朝鮮半島における戦争危機が一気に高まった。さらには南中国海をめぐる領有権問題で、オランダ・ハーグの仲裁裁判の判決をめぐって中国は領有権を主張し、19日から一部海域で軍事演習に入りました。こうした動きも含めて何が起きてもおかしくない情勢です。

こうした東アジアをめぐる情勢に対して、韓国民主労総は、7・20ゼネストを蔚山(ウルサン)の自動車・造船などの基幹産業労働者を先頭に全国10万人で打ち

抜き、ハンサンギョン委員長に対する有罪判決に対して総力で闘っています。11月民主労総ソウル地域本部の呼びかけに応じて、国際連帯を強化しよう！

国内情勢で言えば、神奈川県相模原市の障害者福祉施設で起きた殺害事件。話を戻せば参院選後、都知事選情勢の中で、改憲が焦点化しています。7・13～14で、天皇の「生前退位」が、トップニュースとなり、憲法第2条(皇位継承)、第2条(摂政)を変える改憲への策動が始り、安倍は任期(18年9月)のうちに、いや任期を延ばしてでも改憲 9条改憲に向かっていきます。さらに、安倍はイギリスの「EU離脱ショック」による円高・株の大下落がおそう中で、28兆円の財政出動を画策し、労働法制改悪へと向かっています。郵政職場における「5年ルール」1年半前倒しの攻撃もこうした情勢が背景にあることをつかもう。

世界中で起きていることの本質は、新自由主義の崩壊が、貧困と低賃金・失業の拡大、医療・社会保障の解体をもたらし、それが極限的な社会の分裂と破壊、人種差別・民族差別、階級分断、1%と99%の極限的な階級矛盾・階級対立の激化を引き起こしていることでもあります。

世界のブルジョア階級が進めていることは、さらなる労組解体攻撃 労働者の分断支配であります。その分断の究極は、帝国主義の侵略戦争であり、他国の労働者同士との殺し合いです。労働者にとって希望は団結であり革命です。

8・6 - 9ヒロシマ～ナガサキを闘い、改憲・戦争の安倍打倒、国鉄決戦勝利、非正規職撤廃、国際連帯で、後半戦を11月へ向けて闘いぬこう！

郵政非正規ユニオン第6回定期大会の大成功

郵政非正規ユニオンは、結成5年の苦闘の中から東京において2016年4・17郵政労働者集会をかちとり、職場で闘う労働組合として飛躍しました。その土台を築いたものは、東京多摩局における齋藤委員長を先頭とする解雇撤回の不屈の闘いであり、共に闘いぬいている結成以来の組合員の団結であります。

7月18日、第6回定期大会は、何よりも齋藤委員長が元気よく登場したことが勝利です。そして5年間の総括を提起し、現場の組合員が総括提起に応じて、それぞれの職場の闘いを報告し大会は成功へと導かれました。交流センター・全通部会に結集するわたしたちも、郵政非正規ユニオンの仲間と共に連合・JP労組中央打倒の闘いをそれぞれの職場で闘おう！

3、11/6東京(～11/12ソウル)11月労働者国際共同行動へ職場から組織しよう

「5年ルール」一年半前倒し攻撃との闘い

安倍政権は、改憲攻撃のもう一方の柱に、労働法制改悪 労組破壊を進めています。当局とJP労組中央が一体で進める「5年ルール」一年半前倒しも、そうした

安倍の意図としてあります。改憲 階級戦争攻撃であることをつかんで闘おう。

許せないことにＪＰ労組中央は、今春闘において当局と「５年で解雇」の解雇要件をつくりあげました。それも２０１６年１０月１日を基準日として、１０・１以前の採用者は、無期転換権であたかもバラ色のように描き、１０・１以降採用者は、「５年で解雇」の解雇要件がついてくるという絶対に許せないものです。首切りに手を染めたＪＰ労組中央とその背景にある情勢、階級的暴露 宣伝、扇動を強化し、スキル評価による分断をとらえて闘おう。

ふりかえれば、そもそもＪＰ労組の綱領は、「生産性向上で企業に尽くす」であり、「頑張った者がむくわれる」新人事評価制度こそ、求めていた最高の制度だとしています。しかし、現場では圧倒的な人員不足の中で、頑張っていないものなどひとりもない！みんなが助け合いながら仕事をしています。そうした中で、人事評価をめぐる「上昇志向のやつは給料より肩書がほしいんだ」「なんで仕事をやってるやつが評価されないんだ」「ようは、ゴマすりだけが評価されるんだ」というのが現場の声があります。

もうひとつ、新人事給与制度では、手伝われた方がマイナスポイントになり、手伝った方がプラスになるとされていた。しかし、協力し合って仕事をするのに、だれもがそんなことを考えていられない。こうした日常をとらえて、「労働の奪還」を据えてＪＰ労組中央打倒を鮮明に職場を組織していこう！

拠点建設に向かって

選挙戦における街頭宣伝において街頭の労働者と討論がかみ合いました。我々の職場の労働者と何ら変わらない同じ労働者です。我々は街頭で情勢を語り、革命の必要性を語り相手の意見を聞きました。それを職場でやろうということです。職場における逡巡は何か、それは私たちに対する労働者の「批判」に対する恐怖です。

私たちは、職場でひとりでも闘う、部会ピラ、独自ピラも撒く、そうした行為は、一方通行であり、生きた交通関係とはなっていない。自分が書いたピラをめぐる、職場の労働者と掛け値なしに討論を組織しようということです。

日々の職場闘争の実践と、そうした闘いの積み重ねで、郵政民営化絶対反対、民営郵政とそれを支えるＪＰ労組中央打倒、非正規職撤廃・・・という私たちの主張を現場の労働者の共通認識まで高めていこう。そうした力で組合権力奪取と職場支配権を取り戻していこう。

１１／６労働者集会に向かって、東京では郵政非正規ユニオンの仲間と共に、「１１月労働者集会へ行こう！郵政労働者実行委員会」（仮称）を立ち上げました。４・１７郵政労働者集会の大成功を引き継ぎ、１０月に、第２回目の郵政労働者交流集会を準備しています。全国の郵政職場で働く仲間も、職場・地域で創意工夫して１１月労働者集会に向かって闘おう！